2026 年 11 月 4 日

報道関係各位

川崎市（経済労働局）
三菱地所株式会社
東急不動産株式会社
プライム ライフ テクノロジーズ株式会社

～量子等先端コンピューティング分野の研究開発から社会実装までを支える拠点へ～

「新川崎・創造のもり イノベーション拠点整備事業」事業契約締結

川崎市と、三菱地所株式会社（本社：東京都千代田区）、東急不動産株式会社（本社：東京都渋谷区）、プライム ライフ テクノロジーズ株式会社（本社：東京都港区）の 3 社（以下「事業者」）は、「新川崎・創造のもり イノベーション拠点整備事業」（以下「本事業」）に関し、2026 年 10 月 30 日に事業契約を締結しました。

本事業では、JR 新川崎駅に近接する「新川崎・創造のもり」（川崎市幸区）内の K² タウンキャンパス敷地において、量子・AI・半導体等の先端コンピューティング分野の「知」と「人材」が集積し、PoC（Proof of Concept：概念実証）や社会実装の拠点となる施設「（仮称）QBIC（Quantum Business Incubation Center）」（以下「本施設」）を事業者が整備・運営します。

本施設は延床面積約 5 万㎡、ラボ賃貸面積約 3 万㎡の規模を見込んでいます。レンタルラボやコワーキングスペース、交流・展示、滞在機能等を備える計画で、研究者、企業、スタートアップ、大学等が分野を越えて集まり、新たな事業創出に取り組む施設として、2030 年の開業を予定しております。



▲「（仮称）QBIC」外観イメージ

事業者は、川崎市が推進する「量子イノベーションパーク構想」の中核拠点として本事業にて高質な研究・開発環境を整備するとともに、量子に関連する企業・人材を誘致し、研究機関や企業との連携と共創を推進することで、広域・国際的な量子イノベーションを先導するエコシステムの形成を目指してまいります。

■「(仮称) QBIC」について

本施設は量子技術を中核とした先端コンピューティング分野に関するラボ機能と共創機能を備えた、全国でも先駆的なPoC/社会実装拠点となることを目指します。また、カフェラウンジ等のアメニティ機能や、地域交流・学びの場も一体的に備えることで、企業・研究機関の人材間の交流創出に加え、先端技術と市民・地域社会をつなぐ、開かれた賑わい空間を創出します。隣接する公園と連続性を持たせ、研究者等の憩いの空間を創出し、公園を訪れた方々も気軽に立ち寄れる施設として整備します。

【「(仮称) QBIC」の特徴】

(1) 量子技術の社会実装を加速するPoC/社会実装拠点

量子技術を核に、量子・AI・半導体等の先端コンピューティング分野における研究成果を実証・事業化し、社会実装へと橋渡しする拠点を整備します。

(2) 研究機関・企業・スタートアップ等が連携する共創環境

レンタルラボ、コワーキングスペース、交流・展示機能等を備え、多様なプレーヤーが分野を越えて連携し、新たな技術検討、共同PoC、事業創出に取り組むための共創環境を整備します。

(3) 人材の交流、先端技術と地域社会をつなぐ、開かれた交流・学びの場

エントランスやカフェラウンジ、コワーキングスペース等を活用した交流・展示・情報発信・教育・学びの機会等を通じて、研究成果や先端技術を地域にも開き、市民や子どもたちが科学技術に触れられる場を創出します。



▲エントランスホールイメージ



▲コワーキングスペースイメージ

■本施設の概要（予定）

施設名称	(仮称)QBIC
所在地	神奈川県川崎市幸区新川崎7番1号
アクセス	JR横須賀線「新川崎」駅徒歩約10分、JR南武線「鹿島田」駅徒歩約15分（予定）
敷地面積	約16,400㎡
延床面積	約50,000㎡
構造階数	鉄骨造／地上9階建
用途	レンタルラボ、オフィス、店舗など
着工／竣工	2027年／2030年（予定）

＊施設概要は今後の関係者間での協議により変更となる場合があります。



■川崎市「量子イノベーションパーク構想」および本事業の背景について

川崎市は、市内の研究開発拠点や企業、大学、スタートアップ等との連携を広げ、量子技術をはじめとする先端技術の研究開発・実証・社会実装を一体的に推進する「量子イノベーションパーク」の実現に向けた取り組みを進めています。なかでも新川崎・創造のもりでは、量子コンピュータ IBM Quantum System One「Kawasaki」の設置・稼働や、SQAI（サスティナブル量子 AI 研究拠点）新川崎サテライト拠点における量子コンピューティング※の活用支援など、量子分野における産学官連携の基盤が形成されてきました。

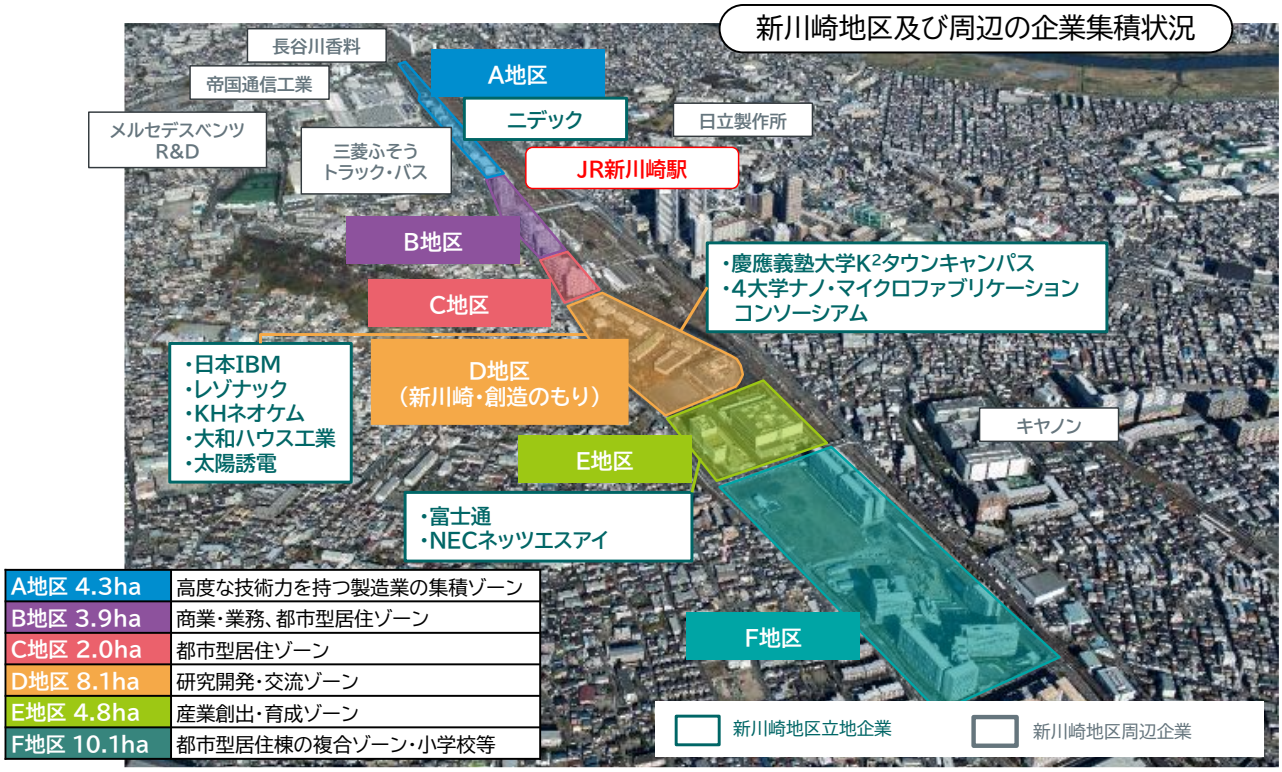
近年、量子技術は、計算、通信等の分野において、将来の産業競争力や社会課題解決を支える基盤技術として注目が高まっています。一方で、社会実装に向けては、研究開発の成果を産業界の具体的な課題と結び付け、実証や事業化につなげていくための環境づくりが重要となっています。

「(仮称) QBIC」は、川崎市が掲げる「量子イノベーションパーク構想」の中核拠点として、研究開発、実証、共創、情報発信、人材育成等の機能を一体的に備え、先端技術と産業をつなぐ実装の場を創出します。新川崎・創造のもりから、市内外の多様なプレーヤーとの連携を広げ、イノベーションが次々と生まれるようなエコシステム形成を目指します。

■「新川崎・創造のもり」について

新川崎地区は旧国鉄の操車場跡地を中心とした 33.2ha に及ぶエリアであり、2005 年に新川崎地区・地区計画が策定され、ものづくり・研究開発機能の強化を通じた産業の創出・育成および市民利用機能の整備が図られています。

新川崎・創造のもりはこのうち D 地区に位置し、産学官の連携による新しい科学・技術や産業を創造する研究開発拠点の形成と次代を担う子どもたちが科学・技術への夢を育む場づくりを目指し、川崎市にて段階的な施設整備を推進しています。



出典：川崎市「新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画」

- 2000 年に K² タウンキャンパスを慶應義塾大学と川崎市の連携・協力のもと開設
- 2003 年から、かわさき新産業創造センター（KBIC）として、3 棟のインキュベーション施設（KBIC 本館、NANOBIC、AIRBIC）を順次開設
- 計 100 室、ラボ面積 8,100 ㎡の首都圏最大級のインキュベーション拠点へと成長
- 民間事業者による企業向けレンタルラボ約 11,000 ㎡も整備され、大手企業のオープンイノベーション型ラボも立地



▲赤枠：「(仮称) QBIC」事業敷地

出典：川崎市「新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画」

※ 量子コンピューティング：量子力学の法則を利用して、従来のコンピューター（古典コンピューター）では膨大な時間を要する複雑で高度な計算を、短時間で解くことを可能とする技術。電力消費が極めて小さいことが特徴であり、将来、材料開発、創薬、金融、AI など幅広い分野で活用され、革新的な成果を生み出すと期待されています。

■（ご参考）三菱地所グループの産業エコシステム形成に向けた取り組み

三菱地所グループは、「サステナビリティビジョン 2050」において、「Be the Ecosystem Engineers」を掲げています。これは、立場の異なる多様な主体が持続的な共生関係を築ける「場と仕組み」を提供する企業を目指すという考え方です。

この考え方のもと、三菱地所は、産業分野や地域ごとに特有の課題を丁寧に読み解いたうえで、多様なプレーヤーとのまちづくりを通じてその解決を後押しするとともに、「産業エコシステム」の形成と持続的な成長を推進しています。

（関連する取り組み）

【東北大学との包括連携協定について】

三菱地所は、東北大学との包括連携協定（2026 年 7 月締結）に基づき、半導体・フィジカル AI・量子をはじめとする先端技術分野において、産学連携の促進、人材育成、研究成果の社会実装に向けた取り組みを推進しています。世界最高水準の研究基盤と人材を有する同大学との連携を通じ、研究者・企業・行政をつなぐネットワーク形成や新たな事業機会の創出に取り組んでいます。

関連リリース：https://www.mec.co.jp/news/detail/2026/07/01_mec260701_tohoku%20univ

【量子共創拠点「Tokyo Quantum Gateway（仮称、略称：TQG)」について】

三菱地所は、デロイト トーマツ グループとともに、量子技術分野における産学官連携、事業共創、人材交流を通じて、量子技術の社会実装を促進する量子共創拠点「Tokyo Quantum Gateway（仮称、略称：TQG)」を、2027 年 1 月に東京・丸の内に開設します。ビジネスが集積する丸の内という「場」と、偶発的な出会いや継続的な交流を促す「仕組み」を提供することで、日本の量子産業の発展に貢献していきます。

関連リリース：https://www.mec.co.jp/news/detail/2026/10/05_mec261005_tokyoquantumgateway

【OptQC 株式会社への出資について】

三菱地所は、成長産業の共創を目指すコーポレートベンチャーキャピタル「BRICKS FUND TOKYO」を通じて、光量子コンピュータの実用化を目指す OptQC 株式会社に 2026 年 8 月に出資しました。同社は、東京大学において 25 年以上にわたり培ってきた光量子技術の研究を背景に、国内における光量子技術の実用化を牽引する存在として期待されており、NTT 株式会社との資本提携も発表されています。三菱地所は、こうした国内外の有望スタートアップへの投資と成長支援を通じ、産業エコシステムの形成を進めてまいります。

関連リリース：https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000034.000135365.html

【北海道千歳市における先端半導体 R&D 拠点形成・産業まちづくりについて】

三菱地所は、千歳市他と連携し、国内外の企業、大学、研究機関が集う先端半導体研究開発・イノベーション推進拠点「(仮称) Chitose Technology Frontier」の形成に取り組んでいます。また、千歳市との包括連携協定に基づき、同拠点の形成を起点として、企業・人材の誘致・定着や都市機能の充実など、地域産業の持続的な成長に向けたまちづくりを推進しています。

関連リリース：北海道千歳市における先端半導体 R&D 拠点形成に関する連携協定
https://www.mec.co.jp/news/detail/2026/10/23_mec261023_chitosetechnologyfrontier
千歳市との包括連携協定
https://www.mec.co.jp/news/detail/2026/10/23_mec261023_mecchitose

以　上